

# 個別最適な支援をつなぐプロジェクト

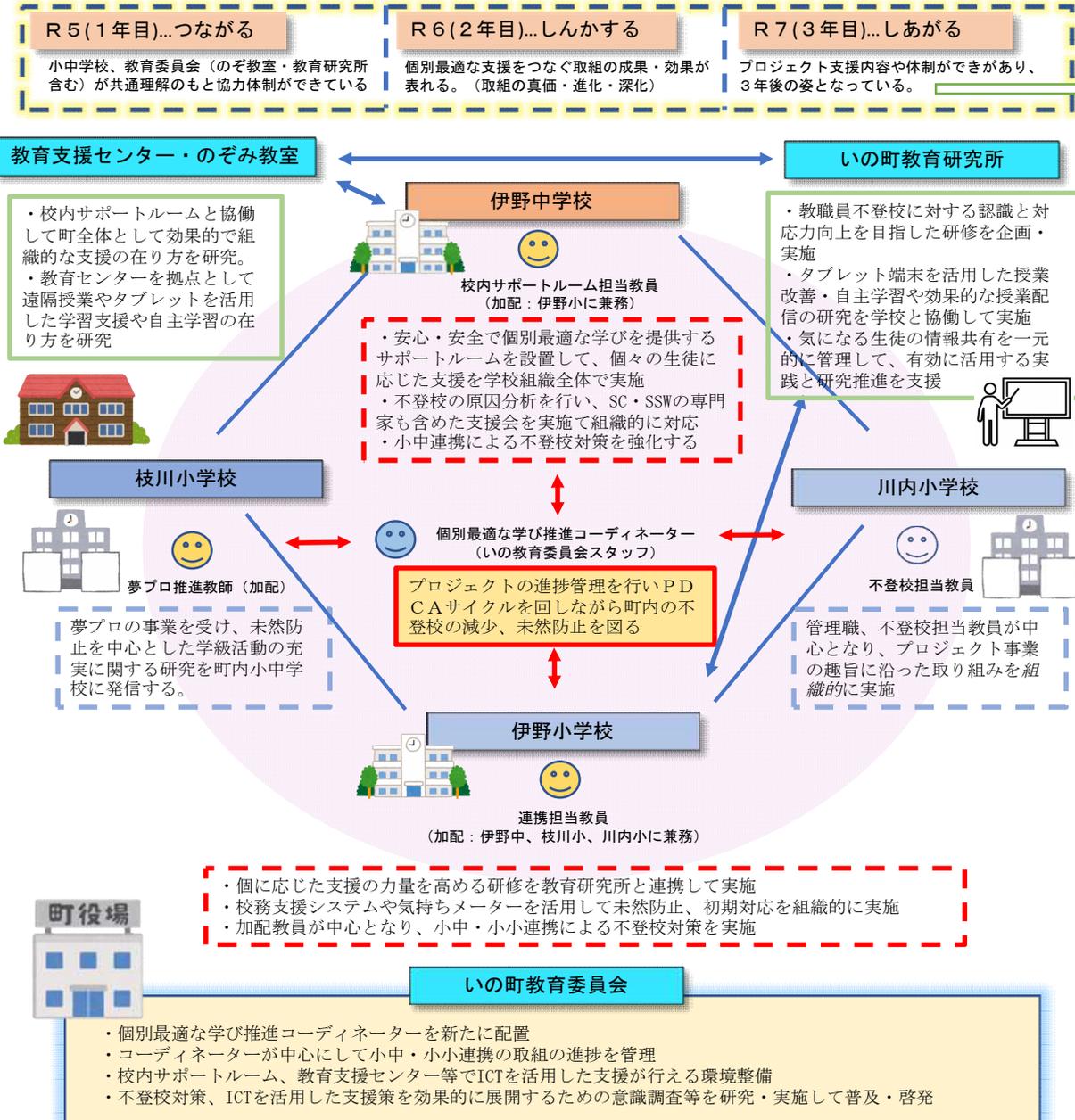
## (伊野中学校区の不登校対策)

### 【現状・課題】

- ・不登校の1,000人あたりの不登校数が高い状況。  
R3年度 - 小学校 (12.2人、県14.8人、国13.0人) 中学校 (町68.0人、県61.2人、国50.0人)
- ・新規不登校発生率が高い。  
小学校 (R3-60.0%⇒R4-68.8%)  
中学校 (R3-22.2%⇒R4-37.0%)  
※R4は12月末現在
- ・のぞみ教室への入級が増加。  
(H30-16、R1-20、R2-29、R3-28、R4-30)
- ・不登校対策において小中連携が十分に機能していない。  
・未然防止、初期対応、自立支援の3段階への支援が十分でない。  
・学校における組織的な対応が十分に整っていない。

### 【方向性】

- 1 連携による組織的な体制**  
不登校への未然防止、初期対応、自立支援の充実を図るため、伊野中学校校区（伊野中・枝川小・伊野小・川内小）の支援内容の統一、円滑な引継ぎ、引継ぎ内容の充実など、効果的な小中、小小連携について研究する。
- 2 安心・安全な居場所づくり**  
伊野中学校内に「校内サポートルーム」を設置して、学習支援等による不登校の未然防止、不登校生徒の社会的自立に向けた支援の強化、充実を図る。
- 3 ICTを活用した支援の充実**  
「教育支援センター・のぞみ教室」「いの町教育研究所」においてICTを活用した自主学習や遠隔授業等の研究を行い、学習機会の確保と子どもを孤立させない体制づくりを教育委員会全体で行う。



### 【3年後の姿】

- ・不登校の出現率が全国レベルとなり、新規不登校発生率が年々減少している。
- ・不登校の状態に応じて、校内サポートルームや教育支援センター、その他の機関（学びの多様化学校など）での支援など、全ての子供に支援が行き届くようになっている。
- ・タブレット端末を活用した授業改善が進み、持ち帰りが常態化している。
- ・ICTを活用した授業改善が進み、自主学習や授業配信により全ての子供に学習機会の保証ができています。

### 【評価指標 (KPI)】

- 1 連携による組織的な体制**
  - [1年目]
  - ①伊野中学校区の新規不登校発生率を前年比-5%
  - ②伊野中学校区の小小連携・小中連携に関する研修 3回
  - [2年目]
  - ① 前年比 -5% ② 3回
  - [3年目]
  - ① 前年比 -5% ② 3回
- 2 安心・安全な居場所作り**
  - [1年目]
  - ①伊野中学校区の学校で、不登校の兆しが見られた段階で複数で早期に初期対応を実施した割合 100%
  - ②児童生徒の意識調査「あなたの学級は安心してできる学級ですか」肯定的回答 75%
  - [2年目]
  - ① 100% ② 80%
  - [3年目]
  - ① 100% ② 85%
- 3 ICTを活用した支援の充実**
  - [1年目]
  - サポートルームでタブレットを使って、授業に参加できている
  - [2年目]
  - タブレットを使って、自分で課題解決学習ができている
  - [3年目]
  - タブレットを日常的に使いなりたい自分になるための学力や社会自立能力が身についている。